

月刊
JMITU

チキコカ

新型コロナ対応版



5月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2021年発行

No.437

新しい働き方は多様で自由？

本当にどうなのだろうか？

仕事でコロナに

感染したら労災？

会社が対応しない場合でも、労働基準監督署に行き、労災保険給付の請求をしましょう。

その際、「事業主が労災の証明を拒んだため、証明がないまま請求書を提出するが受理していただきたい」旨の文書を添えて提出します。

業務中に発生した災害については「労災」と認定されると、労働者災害補償保険法に基づき、医療費や休業補償を受けることができます。

労災保険は国の強制保険なので適用されない会社は原則としてありませんし、コロナの感染による労災保険給付は、業種によって業務起因の認定を

会社が副業を推奨している

だしやすくしていますから、あきらめずに申請してください。

コロナの感染による労災保険給付については、「事案ごとに感染経路、業務又は通勤との関連性等の実情を踏まえ、業務又は通勤に起因して発症したと認められる場合には、労災保険給付の対象となる」（労働基準局課長通達）とされています。

その上で、①医療・介護従事者、病原体取扱い業務、②複数の感染者が確認された労働環境下での業務（申請者含めて2人以上）、③顧客等との近接や接触の機会が多い労働環境下での業務（小売店、飲食店、直接顧客と相対する販売や運送、育児サービス業務）は労災認定の対象とされています。

令の懸念があります。

副業には、多くの問題があります。特にフルタイムの本業になり個人の時間や社会活動の時間が減り、疲労が蓄積され、健康被害を生むおそれがあります。そのため、労働基準法では、本業と副業の労働時間を通算して1日8時間・週40時間の法定労働時間の原則を適用し、それを超えた時間外労働には、後から契約を結んだ副業の事業主を中心に、割増賃金の支払い義務をかけています。

就業時間外に何をするかは、労働者の自由です。企業秘密をライバル企業にもらすなどの恐れがない限り、副業の権利は認めるべき、との裁判例もあります。しかし、会社が副業を推奨し始めたなら、要注意です。「経営が大変なので賃金を下げることがわりに、その分を他の会社で働いて稼いでほしい」ということであれば、労働条件の不利益変更であり、一方的に行うならば、労働契約法第9条違反です。

しかし、実際にはこの規定はあまり運用されず、長時間労働に歯止めをかけることができず、長時間労働による健康被害が起きて、原因や責任の所在が特

また、事業の縮小から事業所閉鎖に向け、リストラ準備を進めている可能性があります。労働条件の改悪（不利益変更）やリストラ、違法な業務命

定されず、労災認定はされにくく、損害賠償も求めにくくなります。結局、副業をした本人の自己責任にされやすいということですが。

担当業務が必要なくなったから解雇するといわれたら

「辞めるつもりはありませんし、解雇は受け入れられません」と会社に伝えましょう。

会社は労働者を自由に解雇することはできません。客観的に合理的な理由を欠き、社会通念上相当であると認められない解雇は無効です（労働契約法第16条）。

業績悪化や、担当している業務がなくなったなどの経営上の理由による解雇は、「整理解雇」と呼ばれ、解雇が有効とみなされるには、4つの要件が必要です

① 人員削減の必要性があること

② 解雇を回避するための努力が尽くされていること

③ 解雇される者の選定基準及び選定が合理的であること

④ 事前に使用者が解雇される者へ説明・協議を尽くしていること

今の担当業務がなくなっても、会社には、解雇を回避し、雇用を継続するための代替の業務を提案するなどの努力を行う義務があります。

在宅勤務光熱費が自己負担

感染防止や通勤苦解消メリ

ットもある在宅勤務。これまで会社負担だった費用を、就業規則の改定もなく、在宅勤務と引き換えに個人負担にするのは、労働条件の一方的な不利益変更にあたります（労働契約法第

9条）。ただし、労働基準法には、「労働者に食費、作業用品その他の負担をさせる定めをする場合」は就業規則に定めなければならないとの規定（第89条5号）があり、就業規則に定めがあれば、自己負担とすることも違法ではありません。

コロナ禍への対応として、就業規則の変更をして経費を労働者負担としたというならば、その手続きが正しくなされているか、労働者からの意見聴取を行い、行政に変更した就業規則の届け出をしたかなどを確認し、そうでなければ、就業規則変更は無効といえます。

在宅勤務に当たり、会社から社用パソコンを貸与されるケースは6割弱、スマホ等も貸与されているケースが3割といった状況です。電気代、通信費用については、自己負担のケースが多く、会社が一定の費用を

支払っているのは2割程度となつています。

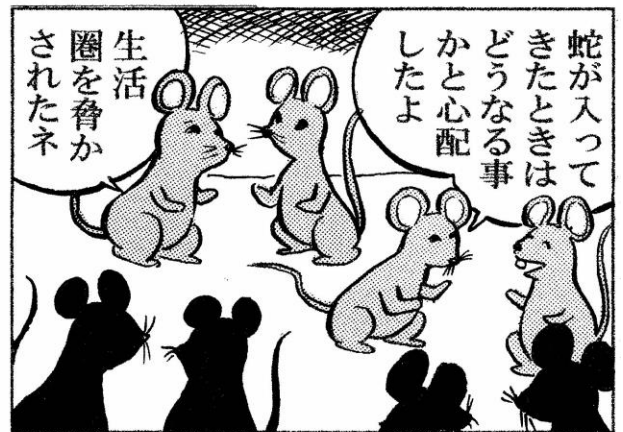
ただ、その後、在宅勤務を恒常化させる企業が増えるにつれ、事業に係る経費負担を会社に求める声は強くあがるようになりました。セガでも在宅勤務手当1日300円支給されています。（他方で、通勤手当をなくして実費精算にするなどの事例も増えています）。

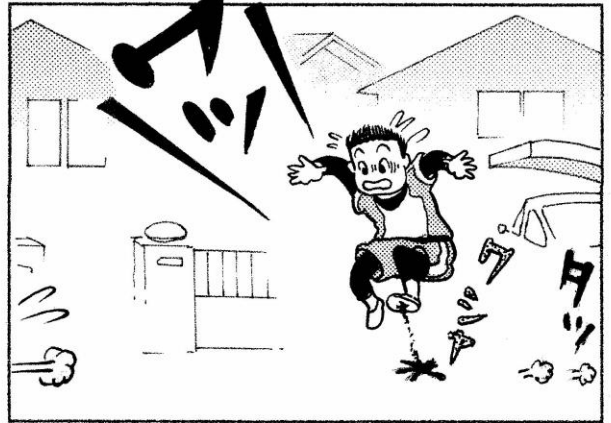
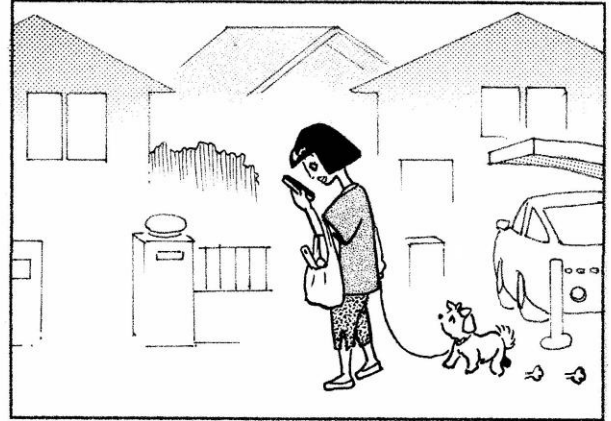
ジョブ型雇用

ジョブ型雇用なんかカッコ良さそうと思われませんが、狙いは解雇規制の緩和と成果主義。今は事業所や部門が閉鎖されても会社は解雇しないよう対策することが常識ですが、これを崩す為に、ジョブを限定し、リストラしややすい労働契約を増やそうとしています。

4こ末漫画

川崎よしき





掌編小説

オレンジ色の封筒

仙洞田一彦

ようやく届いたと言うか、ついに来たと言うべきか。オレンジ色の、私宛の封書が届いた。テーブルの上に置いた封筒には老眼でも分かるようなのか、大きめの字で「新型コロナウイルスワクチン接種のご案内」と印刷されていた。

テレビニュースでは毎日のように、注射する場面が出て来る。その場面を見ると時々、注射が大嫌いだっただ母を思い出す。母は医者嫌いだっただが、その原因は注射にあるだろうと思っっている。昔は何かあって医者に行く、すぐに注射を打たれたような気がする。多くは風邪で行ったと思うが、

すぐに注射された。行く患者の方も、注射されないと、医者が手を抜いたように感じたのではないだろうか。だから医者に行くという事は、注射しに行くということだった。

その母の血を濃く受け継いでいると思われる私も、注射は大嫌いだ。もつとも注射が好きだという人は、あまりいないと想像するが。私はインフルエンザの予防注射も行ったことがない。流行するインフルエンザにはいろいろ型があつて、それに合わないとか効かないという。合わなければ、痛い思いをしただけ損だ。だから行かないという訳でもないが、なんとなくそれで行かないことを合理化しているよ。うなどころもある。さいわいにしてこれまで、インフルエ

ンザで何日も寝込むようなことはなかった。

コロナワクチンは副反応で、何百万分の一かで死者が出るとか言われている。確率としては、確かに少ないと思う。

しかし、何百万分の一が自分に当たったら、私としては百パーセントである。宝くじなら「大当たり」と言つて万歳できるが、ワクチンではそうはいかない。確率が低いと言われている宝くじだって、買えば当たらないという保証はない。

「副反応」という言葉は、コロナ禍で初めて聞いたような気がする。こういう場合、以前は副作用と言つていたような気がする。これはワクチンを受けない理由にはならないが、この言い換えの裏にはな

にか魂胆が隠されているのではないかと疑つたりする。

オレンジ色の封筒の「新型コロナウイルスワクチン接種のご案内」という言葉は、いずれにしても、私に覚悟と選択、あるいは選択の覚悟を強いる。

ワクチン接種がいち早く開始されたところでは、予約が殺到、集中してトラブルが発生したりしている。東京の真ん中に大規模接種場とかが作られて、行列ができています。他人よりも早く接種したい人の気持ちも良く分かる。ワクチンを打つ前にコロナに感染したら、死ぬかもしれないのだ。「死ぬかも」ではない、「死ぬ」のだ。「何百万分の一」の方を選択した方がいい。冷やかしても何でもなく、そう思う。自分の命のための選択は、

本人に任されている。

日本のコロナ禍の感染状況は「さざ波」と言った人がいた。緊急事態宣言は欧米と比べれば「屁」のようなものとも言っていた。でも実際に亡くなった人もいるし、「屁」のような緊急事態宣言下で失業したり、倒産したりしている。おそらく人の気持ちに寄り添えない人だろう。またコロナウイルスからは鉄壁で守られている人だろうと推測する。入院できない人がいっぱいいる状況でも、すぐに入院できる立場の人かもしれない。そういうのとは縁のない私は、オレンジ色の封筒を前にして考えざるを得ない。

外は雨である。梅雨入りはまだのようだが、うつつうしい雨が降っている。寒く乾燥した冬はそれほどでもないが、これからはマスクしているのが辛い季節になる。私もこの一年半ほど、マスクをしていない人をそういう目で見っていた。日本は同調圧力が強いという人もいる。街中でマスクをしている人が圧倒的になると、マスクをしていない人は少数者。その少数者に向ける視線である。なぜ従わないんだという非難。そういう奴は外へ出るなという排他。

これを指差して「あの人、ワクチン、まだらしい」と、ひそひそやるのだろうか。あるいはどこからか情報を得て来て、意図的に噂を流すのだろうか。しかしワクチンを打たなければ自分が感染して、人に感染させるかもしれないのだ。周りも不安だ。

ワクチンの薄め方を間違えた。冷蔵庫に電源が入っていなかった。二回でいいところを三回打った。血栓ができる。オレンジ色の封筒に、手を付けたくなる。しかしこういう情報が全くなないと、都合の悪い情報は流していないのではないかと疑いも出て来る。

ワクチンを打って死ぬか、ワクチンを打たないで死ぬか。前向きに考えるんだ。生きられる可能性はワクチンを打った方が高い。そちらに賭けるんだ。人生なんて、所詮、賭けみたいなもんだ。運が悪ければ、そこで終わり。あきらめるしかないよ。どっちに転んだって、どうせ、先は長くないだろう。だからさ、確率の高い方にかけるんだ。さざ波だよ。屁だよ。深く考えることないよ。

テーブルの上のパソコン画面が動いた感じがした。オレンジ色の封筒から、パソコン画面に目を移すと、あたらしいメールが友人から届いていた。「これから一回目のワクチン接種にかけます」とあった。わざわざ知らせて来るところを見ると、やっぱり不安なんだよ、なっ。

無事を祈ります。